

新しい 人材活用 プロシエアリング

外部プロ人材 活用成功事例



(株)サーキュレーション
代表取締役 福田 悠

No.75 暗黙知のAI型化で属人化を脱した戦略構築に成功

プロシエアリングとは、高い職能を持って複数企業で同時に活躍するプロフェッショナルを、経営課題に合わせて「雇用」ではなく「活用」という、新しい人材活用の手法です。2014年の設立以来、サーキュレーションには30,000名以上のプロが登録し、20,000件以上のプロジェクトで実績を上げてきました（2026年1月末時点）。プロジェクトは経営要素の強い案件が多く、新規事業の企画推進や、人事・広報等のミドルオフィス支援、さらにはIPO関連から中期経営計画の策定、CFOのシェアなども実行しています。

メカノケミカル技術の 自動化・自走化を目指す

今回は、株式会社メカノクロス様（以下、同社）が、プロ人材とAIが自己批判や制約の読み込みを行う「コンパウンドAIシステム」を構築するプロジェクトに取り組んだ結果、属人化を排除した経営戦略の土台構築に成功した際のプロシエアリング活用事例をご紹介します。

同社は2023年11月に設立された従業員20名の企業で、北海道大

学発の「メカノケミカル有機合成技術」をもとに、溶液反応のメカノ化技術の提供や不溶性高機能材料の開発・提供などを行っています。

課題 組織の頭脳を AIで支えたい

「有機合成技術」は、化学・製造業界特有の商慣習や暗黙知が色濃く残る領域であり、ディープテック特有の共同研究からライセンス事業展開を行う複雑な事業モデルです。汎用的なAIを導入しても表面的な出力にとどまり、実務への適用は困難な状況でした。一方で、戦略や計画業務を担う経営人材の確保は困難を極め、属人化も著しく進む傾向にあったため、組織の頭脳を下支えできる本格的なAI導入が急務となっていました。

そのような状況下、必要な時に専門性の高い人材を雇用せず活用できる「プロシエアリング」に出会いました。

解決策 暗黙知を言語化、 UIを改善し、自走へ導く

サーキュレーションからはプロ人材のご紹介とともに、AIが自己批判や制約の読み込みを行う「コンパウンドAIシステムの構築」という解決策をご提案しました。今回ご推薦したプロ人材の丸澤英

将氏は、株式会社AXION代表として、東京大学大学院でのAI研究を経て外資系戦略コンサルティングファームで戦略策定とデータサイエンスの両輪で活躍し、総合事業会社では全社KPI策定やAI売上予測モデル導入により意思決定の高速化を実現。医療系AIスタートアップではCTO兼COOとしてPMFを主導するなど、経営戦略×AI実装×事業責任の3軸を統合したキャリアを築いてきました。生成AIの実装から技術DD、組織構築まで現場でのAI活用を見据えた導入を完遂できるプロです。

●暗黙知の言語化とAIプロトタイプの構築

まずは丸澤氏が、経営企画責任者の思考プロセスや業界特有の制約をヒアリングし、ルールとして言語化。自社専用のAIプロトタイプの構築に着手しました。並行して現状の業務フローや意思決定プロセスの棚卸しを行い、AI活用を前提とした経営企画体制の再設計に取り組む土台を整えました。

●AIへの逆質問・自己批判プロセスの実装とデモ検証

次にAIに前提を疑わせる「逆質問」や「自己批判」のプロセスを実装。実務に直結する戦略のた

■福田 悠

中央大学理工学部を卒業後、インテリジェンス（現パーソルキャリア）へ入社。製造業を中心とした約 600 社の人材採用を支援。大手法人顧客専門部門を経て、同社初となる社内ベンチャーの立ち上げに携わる。2014 年、サーキュレーションの創業に参画。中小企業や製造業大手顧客を担当しながら、地方金融機関とのアライアンス、地方 7 拠点の設立を主導。2023 年 4 月より代表取締役社長に就任。

■株式会社サーキュレーション

本社：東京都渋谷区神宮前 3-21-5 サーキュレーションビル ForPro
TEL：03-6256-0467 URL：https://circu.co.jp/



株式会社メカノクロス Head of Corporate Strategy

左：西岡 功貴様

右：野村 篤史様

成功事例

- No.70 BIツールの有効活用・内製化に成功
- No.71 DX推進体制を再構築し、全社業務を効率化
- No.72 採用戦略の刷新と内製化で、有資格人材を獲得
- No.73 採用プロセス・広報を見直し、採用数 6 倍を実現
- No.74 FC本部を内製化し全国300店舗展開の基盤を構築
- No.75 暗黙知のAI型化で属人化を脱した戦略構築に成功



左：サーキュレーション コンサルタント 細野 誠

右：プロ人材 丸澤 英将氏

たき台を 6 ～ 8 割の完成度で自動出力できる状態を、計画より前倒しで達成しました。

●汎用性の検証と後任向けUIへの改善

続いて、別テーマでもAIが機能するかの汎用性を検証するとともに、専門用語を排除した平易なUIへと改善し、後任担当者でも使いこなせる仕組みを整えました。

●テーマビルダーの実装とシステムの自走化・定着

そのうえで、AI自身が学習方法を提示する「テーマビルダー」機能を実装。オプトアウトの適用や外部連携の遮断など安全な運用環境を構築し、自社だけで運用できる体制を整えていきました。

経営企画責任者の暗黙知を「憲法ファイル」としてシステムに実装できた点は、属人的な戦略思考を組織資産化するうえで特に重要な成果だったそうです。

成果

自動生成できる環境
自走できる体制を確立

同社はプロシエアリングの活用により、AIが自己批判や制約の読

み込みを行う「コンパウンドAIシステム」の構築に着手し、プロジェクト初月で、計画より前倒しして 6 ～ 8 割の完成度でAIが回答を自動生成できる環境と、属人的な戦略思考を組織資産化できる経営企画の体制が構築できました。プロジェクトを振り返って同社では具体的には以下の 3 つの成果を実感されています。

- ①プロジェクト初月で、6 ～ 8 割を自動生成するAI環境を計画より前倒しで構築できた
- ②経営企画責任者の暗黙知を「憲法ファイル」としてシステムに実装し、属人的な戦略思考の組織資産化を達成できた
- ③運用マニュアルとテーマビルダー機能の整備により、キーパーソン退職後も外部の専門家なしで一定自走できるAI運用体制を確立

プロシエアリング×AI活用・経営企画強化プロジェクトでのご支援ポイント

自社の成長基盤を創るために、

自社内で推進できる人材の確保に向けて社内異動や兼務アサイン、採用活動を強化する方法がある一方で、実際にAI実装や経営戦略立案の支援実績が豊富な人材に伴走してもらうことも非常に効果的だと実感できる事例です。また、社内メンバーの人脈以外でプロ人材を探す手段として、業務委託での支援を通じてアドバイザーになってもらう方法があります。雇用する場合と比較してミスマッチなどのリスクを低減できるという点も有効な手段となりえます。

生成AIの実装と経営戦略の立案両方に精通し、マルチタレントで経営企画を強化できる人材というのは、実際に採用するとなると非常に希少価値が高く、給与も高い傾向にあります。そのような人材を採用したいという要望があった場合はプロシエアリングの活用を検討・提案してみてもはいかがでしょうか。